

第3章 地域資源の把握調査

3-1. 既存の地域資源の把握調査の概要

3-1-1. 総合的な把握調査

市町村史編纂

本市の地域資源の総合的な把握調査として、各分野を網羅した各町史編纂事業に伴う調査を行っています。ただし、これらの調査は、南九州市合併前に行ったもので、合併後の市史編纂はまだ着手されていません。

顚娃町は、平成2（1990）年に顚娃町郷土史編集委員会編『顚娃町郷土誌』（改訂版）を発行しました。知覧町は、平成14（2002）年に知覧町郷土史編さん委員会編『知覧町郷土誌』（追補改訂版）を発行しました。川辺町は、昭和51（1976）年に川辺町郷土史編集委員会編『川辺町郷土史』を発行し、その追録として平成9（1997）年に川辺町郷土史編集委員会編『川辺町郷土史 追録』を発行しました。

南九州市文化財ガイドブックの作成に伴う調査

旧知覧町が郷土史等の文献調査や現地での聞き取り調査等を行い、指定等文化財をはじめ、地域の歴史文化の特色を表す物件を収集し、解説を加えた『知覧町文化財ガイドブック』を刊行しました。合併後、『南九州市文化財ガイドブック』と名称を改め、川辺・顚娃の2地区の調査を実施したうえで刊行しました。南九州市の旧3町ごとの3分冊となっています。

博物館施設への収蔵

平成5（1993）年に開館したミュージアム知覧は、平成19（2007）年の合併後に南九州市立博物館として位置づけ、現在休館中の顚娃歴史民俗資料館、及び川辺郷土資料室の収蔵品を集約・整理作業を行っています。収蔵品には指定等文化財に指定されていないものの、学術的に価値の高いものも多く、大学・研究機関と連携しての調査を行い、その成果は『ミュージアム知覧紀要』に掲載し、情報公開に努めています。

知覧特攻平和会館は、昭和50（1975）年3月に開設された知覧特攻遺品館を前身とし、昭和62（1987）年に開館しました。全国各地の遺族や関係者から寄せられた貴重な遺品や資料を収集・保存・展示しています。近年は各研究機関等と共同で収蔵品の調査を行うとともに、収蔵資料のレプリカ作成や三次元測量等を行っています。また紙資料や飛行機の保存処理等を実施しており、その成果は『知覧特攻平和会館紀要』に掲載しています。

3-1-2. 文化財類型別の把握調査

（1）有形文化財調査

建造物

国登録有形文化財に登録されている物件については、申請にあたって専門家による調査・測量を行っています。本市在住のヘリテージマネージャーからは、古民家等の建造物に関する情報提供を受けています。

令和2（2020）年度に、専門家へ依頼して、南九州市内に所在する麓（武家集落）・浦町



(港町)・野町(商人町)・在(農村)の建造物及び街並みの調査を実施しました。

その結果、重要伝統的建造物群保存地区に選定されている知覧麓以外の3つの麓やその周辺に、近世末から近代に建築された武家様式の建造物を複数確認しました。これらは外観が改装されているものの、構造体から江戸末期から近代にかけて建築されたと判断したものです。

近世の浦町で、近代まで栄えた顚娃町別府の石垣と水成川では、明治時代から戦後にかけて建築された商家や蔵、農村の顚娃町牧之内春向では鹿児島独特の建築様式である二ツ家を複数確認し、その中には江戸時代末期に遡る物件もありました。川辺町神殿中福良では、馬屋と主屋が連なった川辺地域独特の建物を確認しました。

鹿児島県が実施した建造物に関する調査は、表3-1のとおりです。この中には本市に所在する物件が含まれています。

美術工芸品

前述の通り、南九州市立博物館であるミュージアム知覧には、知覧地域を中心に、本市に伝わってきた美術工芸品を数多く収蔵しています。ミュージアム知覧が収蔵している資料の概要は次の通りです。

絵画は、近世以降の水墨画や日本画の他、本市ゆかりの画家の油彩・水彩等の洋画や浮世絵を含む版画等があります。「門之浦伝来絵幕」(県指定)は、中世に中央の文化が地方へ伝播した状況を伝えるものです。

工芸品は、武家集落である麓に伝わっていた甲冑や刀剣、銃砲等の武具が主体です。特徴的なものに、近世・近代に海運商人が琉球(現在の沖縄県)から買い付けてきた琉球漆器があり、麓や浦町に多く伝わっています。

書跡は家々の歴代当主や、鹿児島に縁のある政治家等がしたための掛軸や扁額等があり、麓の家々が家宝として伝えているものもあります。

古文書は、近世の地頭仮屋・領主仮屋関係の文書や証書類が中心です。

典籍類として、近世の郷校で使用されていた漢籍、明治時代以降の小学校等で使用されていた教科書類があります。

歴史資料には、近世の隠れ念仏とその流れをくむとされる信仰の形態「講」で使用していた仏典類や関連する文書、各仮屋が編さんした地誌・地図類があります。

陶磁器は、民具(有形の民俗文化財)として扱っているものが多いものの、武家や神社等に伝わっていたものには、中世・近世に外国からもたらされた美術的価値が高いものがあります。

また、知覧特攻平和会館が収蔵・展示している隊員の遺書等の遺品・遺書をはじめとする品々について、南九州市では第二次世界大戦の様子を今に伝える歴史資料として捉えています。そのうち「陸軍四式戦闘機『疾風』(1446号機)」や、「知覧特攻戦没者の手記」、「なでしこ隊『特攻日記』」を市指定文化財に指定しています。



表 3-1 有形文化財に関する調査

類型	対象地域	調査名	報告書名	調査年度	発行年	調査主体
有形文化財	市全域	鹿児島県緊急民家調査	『鹿児島県の民家—鹿児島県緊急民家調査報告書—』	昭和49(1974)年度	昭和50(1975)年	鹿児島県
			『鹿児島県の民家(離島編)—鹿児島県緊急民家調査報告書—』			
	市全域	鹿児島県近世社寺建築緊急調査	『鹿児島県の近世社寺建築—鹿児島県近世社寺建築緊急調査報告書—』	昭和62(1987)年度	昭和63(1988)年	鹿児島県
			『鹿児島県の近世社寺建築(離島編)—鹿児島県近世社寺建築緊急調査報告書—』			
	市全域	鹿児島県近代化遺産総合調査	『鹿児島県の近代化遺産—鹿児島県近代化遺産総合調査報告書—』	平成14(2002)～16(2004)年度	平成16(2004)年	鹿児島県
	市全域	鹿児島県近代和風建築総合調査	『鹿児島県の近代化遺産—鹿児島県近代和風建築総合調査報告書—』	平成27(2015)～28(2016)年度	平成29(2017)年	鹿児島県
	市全域	近現代建造物緊急重点調査	『近現代建造物緊急重点調査(建築)報告書(鹿児島県編)』	平成27(2015)～令和2(2020)年度	令和2(2020)年	鹿児島県・日本建築士会連合

(2) 民俗文化財調査

本市では、合併前に知覧町及び川辺町が鹿児島大学法文学部人文学科の民俗学教室へ依頼し、民俗調査を実施しています。近年では、鹿児島民具学会による顚娃地域・川辺地域の民具調査が行われ、それを特集した会報が刊行されています。鹿児島県が実施した民俗文化財に関する調査は表3-2のとおりで、本市の民俗文化財に関する報告も掲載されています。

指定文化財・未指定に関わらず、市内に伝承されている無形の民俗文化財は、練習・奉納・披露の際に聞き取り・撮影等の取材を実施し、記録保存を行っています。情報収集のため保存会との連絡を密に行っていますが、活動は衰退傾向にあります。過去の調査でVHSや8ミリフィルムで撮影された映像等も残されています。

無形民俗文化財

近年の過疎化により、無形の民俗文化財(民俗芸能・郷土芸能)は担い手不足が顕著となっています。そうした中、市文化財課では各保存会と連絡をとりながら、練習及び奉納・披露の写真・動画撮影・聞き取り調査を実施しています。

有形民俗文化財

ミュージアム知覧等の各資料館の収蔵品の主体を占めているのが、有形の民俗文化財です。日々の暮らし、冠婚葬祭、生業、信仰に関する資料が数多く収集されています。

近年、空き家の取り壊しの際に民具が廃棄される事例が増えているため、問い合わせ等には可能な限り対応し、貴重なものは寄贈・寄託をお願いしています。聞き取りにより来歴、使用法を記録し、寸法等を計測したうえで、収蔵品台帳に記載しています。



表3-2 民俗文化財に関する調査

類型	対象地域	調査名	報告書名	調査年度	発行年	調査主体
有形民俗文化財	市全域	民俗資料緊急調査	『民俗資料緊急調査報告書—県下30地区の民俗資料—』	昭和38(1963)～39(1964)年度	-	鹿児島県
	市全域	鹿児島県の庚申塔調査	『鹿児島県の庚申塔—庚申供養石造物—』	昭和46(1971)年度	-	鹿児島県
	知覧	知覧町民俗資料調査	『知覧町の民具』	平成元(1989)年度	平成2(1990)年	知覧町教育委員会
	川辺	川辺町民俗資料調査	『川辺町の民具』	平成4(1992)年度	平成5(1993)年	川辺町教育委員会
無形民俗文化財	市全域	民謡緊急調査	『民謡緊急調査報告書』	昭和57(1982)～58(1983)年度	昭和59(1984)年	鹿児島県
	市全域	民俗文化財緊急調査	『鹿児島県の諸職(民俗手工業技術)—民俗文化緊急調査報告書—』	昭和59(1984)～60(1985)年度	昭和61(1986)年	鹿児島県
	市全域	民俗芸能緊急調査	『鹿児島県の民俗芸能—民俗芸能緊急調査報告書—』	平成2(1990)～3(1991)年度	平成4(1992)年	鹿児島県
	市全域	かごしまの祭り・行事調査	『かごしまの祭り・行事—かごしまの祭り・行事調査事業報告書—』	平成27(2015)～29(2017)年度	平成30(2018)年	鹿児島県
	知覧	知覧町の水からくり習俗調査事業	『薩摩の水からくり』	平成7(1995)～8(1996)年度	平成9(1997)年	知覧町教育委員会
	知覧	知覧町民俗資料調査	『知覧町の民俗』	平成2(1990)年度	平成3(1991)年	知覧町教育委員会
	知覧	知覧町民俗資料調査	『知覧町農漁村の民俗と技術伝承』	平成3(1991)年度	平成4(1992)年	知覧町教育委員会
	川辺	川辺町民俗資料調査	『川辺町の民俗』	平成5(1993)年度	平成5(1993)年	川辺町教育委員会



(3) 記念物調査

本市の指定等文化財・未指定文化財では、民俗文化財とならんで記念物（史跡・名勝・天然記念物）が多くを占め、また地域のシンボルとして市民に親しまれている物件が数多くあります。

本計画作成に際し、令和3（2021）年度に、把握のため専門家へ依頼し、現地調査を行い、今後の保存・活用に関する指導を受けました。

史跡

市に所在する指定文化財の史跡のうち、知覧城跡（国指定）・潁娃城跡（県指定）・清水磨崖仏（県指定）・金山水車（轟製錬所跡、県指定）等は、旧町及び南九州市によって埋蔵文化財発掘調査や文献による調査等を行い、報告書を刊行しています。

中世城館跡や寺院跡は地域のシンボルとして親しまれている物が多く、本市の歴史文化の特徴の一つといえます。調査の結果、保存状態の良い中世城館や陣跡が残っている事、廃仏毀釈で寺院自体は廃絶しているが残されている古石塔類に優品が多い事等が分かりました。

また、第二次世界大戦で使用された知覧飛行場及び青戸飛行場、護南師団本部跡等については、特攻平和会館により調査を行っています。

埋蔵文化財の調査に関しては、59 ページ「(4) 埋蔵文化財調査」に整理します。

表 3-3 史跡に関する調査

類型	対象地域	調査名	報告書名	調査年度	発行年	調査主体
史跡	市全域	中世城館跡調査	『鹿児島の中世城館跡』	昭和57(1982)～61(1986)年度	昭和62(1987)年	鹿児島県
	市全域	歴史の道調査	『歴史の道調査報告書 第一集 出水筋』 『歴史の道調査報告書 第二集 大口筋・加久藤筋・日向筋』 『歴史の道調査報告書 第三集 海の道』 『歴史の道調査報告書 第四集 南薩地域の道筋』 『歴史の道調査報告書 第五集 大隅地域の道筋』	平成4(1992)～8(1996)年度	平成5(1993)年～9(1997)年	鹿児島県
	市全域	近代遺跡調査	-	平成8(1996)年度	-	鹿児島県
	市全域	近代の庭園・公園等に関する調査研究	『近代の庭園・公園等に関する調査研究報告書』	平成21(2009)～23(2011)年度	平成24(2012)年	鹿児島県
	川辺	川辺町の城跡調査	『川辺町の城跡』	昭和56(1981)年度	昭和56(1981)年	川辺町教育委員会
	川辺	清水磨崖仏調査	『鹿児島県指定文化財（史跡）清水磨崖仏群 清水磨崖仏塔梵字群の研究』	平成7(1995)～8(1996)年度	平成9(1997)年	川辺町教育委員会
	市全域	文化財保存活用地域計画策定に伴う中世城館等調査指導	-	令和3(2021)年度	-	南九州市教育委員会



名勝

南九州市は自然環境に恵まれており、県指定の名勝・天然記念物となっていないものの、県内外に広く知られる自然景観があります。

自然的な名勝としては、火山堆積物が川の流れや波の力によって削られ形成された溪谷・滝・海岸線等があります。近隣自治体の独立峰（開聞岳・金峰山等）や山並みが、海岸線や農地等と調和した風景も見られます。山地から海岸線へと幅広い環境のため、確認できる植物相も変化に富んでいます。地形と植物相の組み合わせで、多様な景観が見られるのが本市の特徴といえます。

一方、人文的な名勝の代表的なものとして国指定名勝の知覧麓庭園があります。知覧をはじめとする市内の4つの麓（武家集落）及びその周辺には、近世・近代の築庭と推測される物件が散見されます。

市民に故郷を感じさせる茶畑・大根やぐら・水田・石切り場（採石場）は、長い年月をかけた先人の営みによって形成されており、文化的景観としての位置付けも可能です。

表3-4 名勝に関する調査

類型	対象地域	調査名	報告書名	調査年度	発行年	調査主体
名勝	市全域	名勝に関する総合調査—全国的な調査(所在調査)	『清水磨崖仏塔梵字群の研究』	平成23(2011)～24(2012)年度	-	鹿児島県

天然記念物

名勝で前述したとおり、本市には火山堆積物と水の力によって形成された独特の地形・地質があります。山地から海岸線まで多様な環境があり、希少な動植物が確認されています。旧穎娃町・知覧町では生態系調査を実施しました。

表3-5 天然記念物に関する調査

類型	対象地域	調査名	報告書名	調査年度	発行年	調査主体
天然記念物	勝目	天然記念物 権現洞穴 天然橋	『天然記念物 権現洞穴 天然橋』	昭和28(1953)年度	昭和29(1954)年	勝目村教育委員会
生態系調査	知覧	県営中山間総合整備事業	『知覧町生態系調査報告書』	平成12(2000)年度	平成13(2001)年	知覧町教育委員会
	穎娃	県営中山間総合整備(広域連携型)事業	『穎娃町生態系調査報告書』	平成13(2001)年度	平成14(2002)年	穎娃町教育委員会



(4) 埋蔵文化財調査

これまでに行った発掘調査とその報告書については次の通りです。

表3-6 埋蔵文化財に関する調査

類型	対象地域	調査名	報告書名	調査年度	発行年	調査主体
埋蔵文化財	鹿児島県	鹿児島県下の古石塔ならびに関連史跡の分布状況調査	『鹿児島県の古石塔―旧薩摩国編―』 『鹿児島県の古石塔―旧大隅国編―』	昭和61(1986)～ 61(1986)年度	昭和62(1987)～ 63(1988)年	鹿児島県
	知覧	知覧町鎮西地区農免農道整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査	『永野遺跡』	昭和57(1982)年	昭和58(1983)年	知覧町教育委員会
	川辺	都市公園事業に伴う埋蔵文化財発掘調査	『平山城跡(川辺城跡)』	昭和58(1983)年	昭和59(1984)年	川辺町教育委員会
	知覧	特殊農地保全整備(特農)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査	『登立遺跡』	昭和62(1987)年	平成元(1989)年	知覧町教育委員会
	知覧		『下水洗迫遺跡』	昭和63(1988)年		
	頤娃	県営ほ場整備事業(頤娃中部地区)に伴う埋蔵文化財発掘調査	『城ヶ崎遺跡』	平成元(1989)年	平成2(1990)年	頤娃町教育委員会
	頤娃	県営ほ場整備事業(御領地区)に伴う埋蔵文化財発掘調査	『平瀬上遺跡』	平成3(1991)年	平成4(1992)年	頤娃町教育委員会
	知覧	知覧町埋蔵文化財発掘調査	『知覧城跡』	平成3(1991)年	平成4(1992)年	知覧町教育委員会
	川辺	県営特殊農地保全整備事業大戸原地区に伴う埋蔵文化財発掘調査	『水ヶ元遺跡』	平成4(1992)年	平成5(1993)年	川辺町教育委員会
	知覧	県営農地開発事業区画整理に伴う埋蔵文化財発掘調査	『南別府城跡』	平成3・4(1991・1992)年	平成5(1993)年	知覧町教育委員会
	頤娃	県営ほ場整備事業(頤娃御領地区)に伴う埋蔵文化財発掘調査	『砂田遺跡』	平成4(1992)年	平成6(1994)年	頤娃町教育委員会
	頤娃		『堀川遺跡』	平成5(1993)年		
	川辺	川辺町ゴミ処理場建設に伴う埋蔵文化財発掘調査	『鷹爪野遺跡』	平成4(1992)年	平成6(1994)年	川辺町教育委員会
	知覧	知覧町埋蔵文化財発掘調査	『知覧城跡(二)』	平成3(1991)年	平成6(1994)年	知覧町教育委員会
	知覧	ふるさと農道緊急整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査	『林川(向林川)遺跡』	平成5(1993)年	平成6(1994)年	知覧町教育委員会
	頤娃	県営担い手育成基盤整備事業(牧之内地区)に伴う埋蔵文化財発掘調査	『馬場迫・横瀬遺跡 桑木原遺跡』	平成6(1994)年	平成7(1995)年	頤娃町教育委員会
	川辺	県営特殊農地保全整備事業大戸原地区に伴う埋蔵文化財発掘調査	『水ヶ元遺跡』	平成4・5(1992・1993)年	平成7(1995)年	川辺町教育委員会
	知覧	一般県道知覧喜入線工事に伴う埋蔵文化財発掘調査	『堤之原遺跡』	平成6(1994)年	平成7(1995)年	知覧町教育委員会
	川辺	県営特殊農地保全整備事業大戸原地区に伴う埋蔵文化財発掘調査	『供養塚遺跡』	平成7(1995)年	平成9(1997)年	川辺町教育委員会
	知覧	県道枕崎知覧線道路整備に伴う埋蔵文化財発掘調査	『西垂水(山薙)遺跡』	平成7(1995)年	平成9(1997)年	知覧町教育委員会



表 3-7 埋蔵文化財に関する調査

類型	対象地域	調査名	報告書名	調査年度	発行年	調査主体
埋蔵文化財	穎娃	県営担い手育成基盤整備事業(牧之内地区)に伴う埋蔵文化財発掘調査	『馬場迫・横瀬遺跡』	平成7(1995)年	平成10(1998)年	穎娃町教育委員会
	川辺	ふるさと農道緊急整備事業大丸地区に伴う埋蔵文化財発掘調査	『鷹爪野遺跡』	平成9(1997)年	平成10(1998)年	川辺町教育委員会
	穎娃	馬渡川広域一般河川改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査	『堀川遺跡Ⅱ』	平成6(1994)年	平成11(1999)年	穎娃町教育委員会
	川辺	県営特殊農地保全整備事業大戸原地区に伴う埋蔵文化財発掘調査	『矢倉ヶ迫遺跡』	平成8(1996)年	平成11(1999)年	川辺町教育委員会
	知覧	知覧町埋蔵文化財発掘調査	『厚地松山製鉄遺跡』	平成8(1996)年	平成12(2000)年	知覧町教育委員会
	知覧	ふるさと農道緊急整備(大隣地区)事業に伴う埋蔵文化財発掘調査	『登立遺跡』	平成11(1999)年	平成13(2001)年	知覧町教育委員会
	知覧	県営シラス対策関連事業迫瀬戸山地区農道整備に伴う埋蔵文化財発掘調査	『前原遺跡群』	平成11(1999)年	平成15(2003)年	知覧町教育委員会
	川辺	AZスーパーセンターマキオ川辺店建設に伴う埋蔵文化財発掘調査	『寺山遺跡』	平成13・15(2001・2003)年	平成16(2004)年	川辺町教育委員会
	川辺	AZスーパーセンターマキオ川辺店建設に伴う埋蔵文化財発掘調査	『寺山遺跡』	平成16(2004)年	平成16(2004)年	川辺町教育委員会
	川辺	床上浸水対策特別緊急事業に伴う埋蔵文化財発掘調査	『南田代遺跡』	平成13・14・15(2001・2002・2003)年	平成17(2005)年	鹿児島県立埋蔵文化財センター
	川辺	床上浸水対策特別緊急事業に伴う埋蔵文化財発掘調査	『古市遺跡』	平成13・14・15(2001・2002・2003)年	平成18(2006)年	鹿児島県立埋蔵文化財センター
	知覧	知覧町埋蔵文化財発掘調査	『知覧城跡(三)』	平成10(1998)年	平成18(2006)年	知覧町教育委員会
	穎娃	埋蔵文化財発掘調査報告	『穎娃城跡』	平成14・15・16(2002・2003・2004)年	平成19(2007)年	穎娃町教育委員会
	川辺	基盤整備促進事業(一般型)勝目地区に伴う埋蔵文化財確認発掘調査	『土器菌遺跡』	平成11(1999)年	平成19(2007)年	川辺町教育委員会
	川辺	ふるさと農道緊急整備事業君野地区に伴う埋蔵文化財発掘調査	『背野平遺跡』	平成12・14(2000・2002)年	平成19(2007)年	川辺町教育委員会
	川辺	ふるさと農道緊急整備事業荒多地区に伴う埋蔵文化財発掘調査	『荒多遺跡』	平成12・13(2001・2002)年	平成19(2007)年	川辺町教育委員会
	川辺		『上桑持野遺跡』	平成12・13(2001・2002)年		
	川辺	県営特殊農地保全整備事業大戸原地区に伴う埋蔵文化財発掘調査	『津フジ遺跡』	平成13・14(2001・2002)年	平成19(2007)年	川辺町教育委員会
	川辺	広域営農団地農道整備事業川辺2期地区に伴う埋蔵文化財発掘調査	『九玉遺跡』	平成10(1998)年	平成19(2007)年	川辺町教育委員会
	川辺		『塘池上遺跡』	平成12・13(2000・2001)年		



表3-8 埋蔵文化財に関する調査

類型	対象地域	調査名	報告書名	調査年度	発行年	調査主体
埋蔵文化財	知覧	県営中山間地域総合整備事業霜出地区の事業実施に伴う埋蔵文化財発掘調査	『中原鉄生産関連遺跡(前畑西遺跡)』	平成18(2006)年	平成19(2007)年	知覧町教育委員会
	川辺	南薩縦貫道(川辺道路)建設に伴う埋蔵文化財発掘調査	『山神迫遺跡』	平成15(2003)年	平成19(2007)年	鹿児島県立埋蔵文化財センター
	川辺		『堂園遺跡A地点』	平成17(2005)年		
	川辺		『古殿諏訪陣跡』	平成17(2005)年		
	川辺		『折戸平遺跡』	平成17(2005)年		
	川辺	南薩縦貫道(川辺道路)建設に伴う埋蔵文化財発掘調査	『堂園遺跡B地点』	平成16・17(2004・2005)年	平成20(2008)年	鹿児島県立埋蔵文化財センター
	川辺		『堂園遺跡A地点(追加調査)』	平成16・17(2004・2005)年		
	知覧	市道門之浦西塩屋線改良工事に伴う発掘調査	『仲覚兵衛屋敷跡』	平成19(2007)年	平成21(2009)年	南九州市教育委員会
	川辺	野崎古殿線道路新設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査	『馬場田遺跡』	平成19(2007)年	平成21(2009)年	南九州市教育委員会
	川辺	南九州市立市民交流センター「ひまわり館」建設に伴う埋蔵文化財発掘調査	『川辺郷地頭仮屋跡』	平成18・20(2006・2008)年	平成22(2010)年	南九州市教育委員会
	川辺	塘之池公園整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査	『答石遺跡』	平成12・18(2000・2006)年	平成20(2008)年	南九州市教育委員会
	川辺	南薩縦貫道(川辺道路)建設に伴う埋蔵文化財発掘調査	『宮ノ上遺跡』	平成16・17(2004・2005)年	平成22(2010)年	鹿児島県立埋蔵文化財センター
	川辺	南薩縦貫道(川辺道路)建設に伴う埋蔵文化財発掘調査	『鳴野原遺跡A地点』	平成18・20(2006・2008)年	平成23(2011)年	鹿児島県立埋蔵文化財センター
	川辺	九州電力送電線施設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査	『堂園遺跡』	平成23(2011)年	平成25(2013)年	南九州市教育委員会
	川辺		『古殿諏訪陣跡』	平成23(2011)年		
	知覧	公共事業に伴う確認調査報告書	『知覧飛行場跡』	平成24・25(2012・2013)年	平成27(2015)年	南九州市教育委員会
	川辺	主要地方道頰娃川辺線(知覧道路)道路改築事業に伴う埋蔵文化財発掘調査	『高付遺跡』	平成25・26(2013・2014)年	平成29(2017)年	鹿児島県立埋蔵文化財センター
	知覧	道路改築事業(知覧道路)に伴う埋蔵文化財発掘調査	『知覧飛行場跡(二)』	平成26(2014)年	平成28(2016)年	南九州市教育委員会
	頰娃	南九州市埋蔵文化財発掘調査	『頰娃地区遺跡分布調査報告書』	平成23・24・25(2011・2012・2013)年	平成28(2016)年	南九州市教育委員会
	知覧	道路改築事業(知覧道路)に伴う埋蔵文化財発掘調査	『金山水車(轟製錬所)跡』	平成26(2014)年	平成28(2016)年	鹿児島県立埋蔵文化財センター
	川辺	市内遺跡発掘調査	『清水磨崖仏』	平成29・30・令和元(2017・2018・2019)年	令和3(2021)年	南九州市教育委員会
	知覧		『金山水車(轟製錬所)跡』	平成29・30(2017・2018)年		



(5) その他

文化財保存活用地域計画作成に伴い、地形・地質・植生等の現地踏査を有識者に依頼しました。

表 3-9 その他の調査

類型	対象地域	調査名	報告書名	調査年度	発行年	調査主体
その他	市全域	文化財保存活用地域計画作成に伴う地形・地質等調査指導	-	令和3(2021)年	-	南九州市教育委員会

(6) 個人・民間団体の調査

地域研究誌『南九州市 薩南文化』

旧知覧町で、郷土史編纂後に新たに判明した史料の紹介、昔の暮らし等に関する聞き取り等を掲載した郷土研究誌『知覧文化』を知覧町立図書館が創刊し、市町村合併までに45号を刊行しました。

南九州市誕生後も引き続き南九州市立図書館が編集・刊行を担当していましたが、指定管理制度の導入により、



写真 3-1 地域研究誌『南九州市 薩南文化』

11号以降は文化課へ引き継がれました。現在は年度末に刊行し、市内の公共施設や市外の図書館・文化財関連部署、マスコミ等へ配布し、またミュージアム知覧で販売しています。

南九州市内の歴史・文化・自然等について、専門家による論文形式の文章だけでなく、エッセイや覚書等の短文を収録しています。市民が手に取りやすい内容となるよう執筆者に依頼がでるように依頼しています。本誌は、研究者・市民の調査・研究成果の発表の場となっており、『南九州市 薩南文化』で紹介された事がきっかけで、新たに市指定文化財に指定された物件や、地域の方々に注目され地域振興に活用された地域資源があります。

川辺町史談会・知覧町史談会による調査・研究

川辺町史談会は、毎月1回の例会を開催し、川辺地域の郷土史研究や現地調査を行っています。以前の調査成果は、『南九州市 薩南文化』に掲載されています。また、毎年川辺地区文化祭で成果の展示を行っています。これらの調査報告は、旧川辺町及び合併後の指定等文化財を新たに指定する際の基礎資料となっています。

知覧町史談会は、一時期活動を休止していましたが、令和2(2020)年度から年4回程度、現地調査・見学、座学等を実施しています。特に知覧地域のシンボルである「知覧武家屋敷群」との比較のため、近隣の「麓(武家集落)」の見学を行っています。

いずれも会員の高齢化・減少という課題はありますが、観光協会やNPO法人等との連携により、文化財ガイドや公民館講座の講師等の活動の幅を広げる事が可能です。



3-2. 地域資源の把握調査の現状と課題

本市の地域資源の把握調査について、類型別の調査状況及び課題は以下の通りです。

表3-10 地域資源把握調査の現状と課題

分類		頤娃	知覧	川辺	課題
総合把握		○	○	○	市町村史編集 本市の地域資源の総合的な把握調査として、合併以前に各分野を網羅した町史を編纂していますが、合併後の市史編纂はまだ行っていません。 新指定文化財候補の選定 新たな市指定文化財指定候補の選定を継続する必要があります。 博物館施設への収蔵 地域資源の集約・整理作業や、大学・研究機関と連携した調査、ミュージアム知覧紀要の発行と情報公開に努める必要があります。
有形文化財	建造物	△	○	△	知覧型二ツ家をはじめとする特徴的な建造物が多いものの、市内全域の悉皆調査は行っていません。空き家の増加問題とあわせて早急な対応が必要です。
	美術工芸品	△	○	△	ミュージアム知覧・知覧特攻平和会館に収蔵されている物件は把握できているものの、個人所有の物件の情報が不足しています。
無形文化財		－	－	－	合併以前も含め、調査を実施していません。
民俗文化財	有形民俗文化財	○	○	○	各地域で調査を実施しており、ミュージアム知覧収蔵品や石造物を中心に把握していますが、まだ把握できていない物件が多数あると考えられます。
	無形民俗文化財	○	○	○	各地域で現在も伝承されている物件及び近年伝承が途絶した物件は把握できています。
記念物	史跡	○	○	○	中世城館跡・寺院跡を中心に広く調査を行っていますが、未調査の物件が多数あります。
	名勝	△	△	△	各町の郷土史にそれぞれの名勝に関する記述がある他、近年は各分野の専門家による調査が行われています。
	天然記念物	△	△	△	専門家による希少種に関する調査が行われています。
文化的景観		－	－	－	合併以前も含め、調査を実施していません。
伝統的建造物群		×	○	×	南九州市・知覧重伝建を除くと、地区を対象とした調査を実施していません。
埋蔵文化財		○	○	○	各地域で、分布調査を実施しています。
その他	地形・地質・植生	○	○	△	各町の郷土史編纂時に調査を行っています。また埋蔵文化財調査等の際に各地の地層等を記録しています。
	伝承・伝説	△	△	△	史談会等の団体や児童生徒により収集されています。
	地名	△	△	△	各町が編纂した郷土史に、大字・小字のリストや特徴的な地名の由来が記載されています。
	食	△	△	△	本格的な調査を行っていませんが、特産品協会等の地域団体により、郷土料理の伝承や特産品を生かした新しいメニューの開発が行われています。

○：調査報告書あり、△：調査着手、×：未調査、－：該当なし





写真3-2 瀬平海岸と開聞岳

第4章 南九州市の歴史文化の特徴

4-1. 南九州市の歴史文化の特徴

南九州市の海岸地域は、古代以来海外交易拠点としての港湾を有していた事により、国内外の多様な文化が残っています。南九州市の地域資源には、民俗分野を中心に、国内はもとより中国・沖縄（琉球）・東南アジア等の文化との多くの共通点を見出す事ができます。

- ①古代以降の遺跡や港として利用された河口等で中国等外国産陶磁器が見つかったり、中国寧波近郊で産出される梅園石で製作された中世前期の石造物が残されています。また近世以降には、琉球を経由して伝わった石敢當が丁字路等に設置されています。
- ②平安末期から室町時代までこの地域の郡司・院司として繁栄した薩摩平氏一族によって建立された寺院跡や古石塔群、室町時代以降の島津氏統治下で整備された山城群、近世薩摩藩の外城制度による地頭仮屋・領主仮屋と麓（武家集落）等、中世・近世の武士に関する地域資源も特徴の一つです。
- ③菩提寺・祈願所をはじめとする寺院は廃仏毀釈によって寺院・堂宇が破壊されているため、明治時代以前の信仰の様子は残された史料に頼るしかありませんが、仮屋等が編纂した地誌から、ある程度の復元が可能です。また、一向宗（浄土真宗）が禁止されていたため、各地に「隠れ念仏」に関する史跡や仏具が残されています。
- ④各地域の惣社・村社として信仰されている神社も、関連資料が少ないため、地誌や棟札からその歴史をたどる必要があります。一方で御田植祭り・六月灯・豊祭（収穫祭）等の行事が伝承されており、そこで奉納される無形民俗文化財は、それぞれの地域色を残した優れた芸能となっています。
- ⑤井堰・用水路の整備、ため池の築堤等により、生産効率が飛躍的に向上した17世紀中盤以降は、記念碑的な意味合いを持つ水神や豊作を願う田の神像の建立が行われました。畑作地帯では、戦後に灌漑事業が行われ、茶・甘藷の一大産地となりました。その過程で、水の確保に苦勞した先人たちの足跡を物語る記念碑等が残されています。



写真4-1 知覧地域の茶畑



4-2. 島津氏とその家臣団に関する歴史文化

南九州市が所在する薩摩半島は、古来より国内外を結ぶ結節点としての役割を果たしてきました。各地にその支配を巡る合戦の古戦場や戦死者の供養塔が残されています。また島津氏の九州制圧を巡る戦いで大きな役割を果たした佐多氏・頼娃氏といった領主とその家臣団の菩提寺跡や武具、古文書が残り当時の武士の活躍を伝えています。

江戸時代に入ると薩摩藩の「外城制度」により地頭仮屋・領主仮屋と武家集落の「麓」が形成され、政治・文化・信仰の中心として大きな役割を果たしました。これらの武家文化は現在も南九州市の歴史文化に大きな影響を与えています。

中世の山城跡や古戦場等の史跡、近世の地頭仮屋・領主仮屋跡と武家集落である「麓」、信仰していた寺社と奉納品、墓所、慰霊碑等の他、刀剣や鉄砲、甲冑等の武具、陶磁器・漆器等の生活用具、掛軸扁額等の美術工芸品等がミュージアム知覧の収蔵品として保管されています。また、朝鮮出兵に従軍した武士の様子を表現した「太鼓踊り」や、職人としての面を持っていた近世の郷土によって考案されたとされる「水車からくり」等の無形民俗文化財が伝わっています。

鹿児島では、シラス台地の山を削って「山城」が数多く作られ、それらの山城は、近世に入っても薩摩藩の各地に残されました。薩摩藩は山城の麓に「麓」と呼ばれる集落を作り、武士たちを住まわせました。

「知覧城跡」（国指定史跡）と国の重要伝統的建造物群保存地区「南九州市知覧」は、中世山城から近世麓への過渡期を知るための絶好の教材です。また、伝建地区内に点在する7つの庭園から構成される「知覧麓庭園」（国指定名勝）は、京都で学んだ庭師によって作庭されたと伝わりますが、中国・琉球文化の影響もみられます。さらに、各家に伝来していた武具や陶磁器、絵画等の有形文化財は近世武家文化を現在に伝えています。

頼娃地域の「頼娃城跡」（県指定史跡）は、ポルトガルの商人・アルバレスが訪れ、フランシスコ・ザビエルへ報告した事から、ヨーロッパに紹介された日本の城郭とされています。土塁・巨大な空堀等が良好に残されており、頼娃麓は近世以前の建造物は残っていないものの、石垣や路地等に近世麓の雰囲気の色濃く残しています。

川辺地域は、室町時代に島津氏一族内紛の舞台となりました。「平山城跡」（市指定史跡）を中心とした山城群は、地域の中心となる本城と支城で構成される防御網を理解するのに最適な事例です。また、「松尾城跡」（市指定史跡）と、その攻城戦で築かれた室町初期の陣跡である「古殿諏訪陣跡」は、特に残存状態が良く、関連史料も多く残されています。



写真4-2 佐多直忠氏住宅

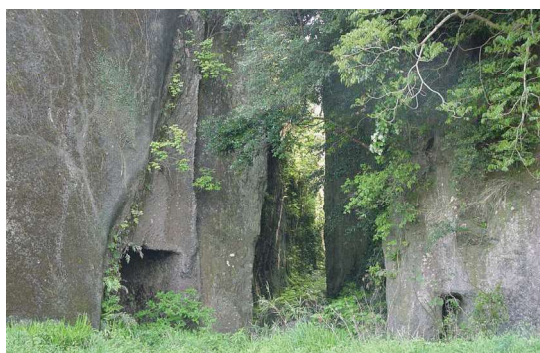


写真4-3 平山城跡（搦手口）

